

教育目標				教育方針		
変化の激しいこれからの社会の中で、自立して豊かな人生を送るために、必要な「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を身につけさせる。				地域ボランティア活動により生徒に自己有用感を持たせるとともに、基礎学力の定着及び人間関係スキルを習得することで、自信と誇りを身につけさせて一人ひとりの自己実現に結びつける。		
自己評価について 達成度 80%以上 A 65%以上 B 45%以上 C 30%以上 D 30%未満 E						
番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
1	総務部	円滑な校務運営	①年間行事計画及び打合内容等を電子化・共有化することで内容の周知、資料の有効活用を促す。 ②3つの部に渡る生徒意識、職員間の意思疎通を計るべく全校一斉行事、各部の行事内容を統一し充実させる。 ③校内の設備環境を整備し、職員・生徒が充実した学校生活を送ることができるようにする。 ④近年の気象状況を考え、生徒の健康配慮を行うために、各行事に関して可能な限り時間短縮に努める。また、集会等ではICT機器を活用してサテライト集会を実施する。	A	① 朝の打合せをグループウェアを用いて内容を記録し、内容を確認することができている。年間行事計画は、本校HPにもアップし校外的にも閲覧できるようにしている。職員会議の会議資料を電子データで共有することで、ペーパーレス化を図ることができ、費用の軽減にも努めることができた。 ② 各部集会や始業式、終業式を始めとして殆どの行事について、123部で共通の内容を一括して職員会議で提案し、内容を統一し充実させることができた。 ③ 校内の設備環境を確認し、必要に応じて用具の補充などを行っている。また、日頃から職員・生徒に清掃活動などから、それを維持管理していく取り組みを行うことができた。 ④ 生徒の健康配慮を行うために、特に熱い気候時に各行事で時間短縮に努め、集会ではサテライト集会を行うことで熱中症対策にも取り組むことができた。	・3つの部が一堂に会する学校行事は、生徒たちの大切な共有・友情の場であり、その成果が表れていた。 ・少人数授業をベターとする生徒が多いようなので、利点を生かした授業に期待します。 ・ボランティアに限らず、他の部活動の情報も発信されたいです。
2		地域、中学校等への広報活動	① オープン・ハイスクールや学校説明会を活用して本校の使命や教育活動の特色を正確に知らせ、中学校の適切な理解を得る。 ② 高校生ふると貢献活動等をおとして、地域や中学校に学校活動を積極的に公開し広報に努める。 ③ 中学校訪問で本校のあり方をお伝えし、中学校の適切な理解を図る。	A	① 8月、11月上旬、11月中旬(夜間)、の年間3回のオープン・ハイスクールを実施し、昨年度を超える参加者を迎え、本校の教育活動や特色ある取り組みをマス・メディアで報道された素材も活用して参加者の理解を得ることができた。 ② クリーンキャンペーンや花いっぱい運動、健康保健施設への訪問や様々なボランティア活動等について、オープン・ハイスクールや学校説明会、さらに生徒による語り部活動等の機会に効果的に伝えることができた。 ③ 中学校訪問では、中学校の行事等に積極的に参加し、本校の教育活動をお伝えして適切な理解を得ることができた。	
3		地域、育友会、同窓会等との連携	① 育友会及び地域の方々との積極的な参加を得て連携を図り、文化祭、体育祭、オープンスクール等の諸行事を実施する。 ② クリーンキャンペーン等の活動を通じて、育友会・地域の方々と交流を深める。 ③ 学校ホームページを積極的に活用し、地域や同窓生に本校の活動状況を公開することで、連携を深める。	A	① 地域の方々を迎えた文化祭や体育祭等において、育友会と連携して、円滑に行事を進めることができた。 ② クリーンキャンペーンなどの地域の清掃活動において、西脇市との連携を図り取り組むことができた。その取り組みを西脇市の広報にも取り上げていただくことができた。 ③ 本校の行事等の活動状況の取り組みなどを、学校ホームページを積極的に活用して公開し、地域や同窓生に本校の取り組みを伝えることができている。	
4	教務部	多部制・単位制の利点を生かした教育課程の編成と運用	①所属する部以外の授業の受講や、多様な単位修得方法(高等学校卒業程度認定試験・技能審査による単位認定、定通連携併修)を展開する。 ②生徒の多様性に対応した特色ある学校設定科目の設定と運用をおこなう。	A	①達成 ②達成 今年度、新学習指導要領の全面実施にむけて、令和4年度以降入学生教育課程について検討することができた。今後は全面実施に向けて評価の在り方等も含めて検討していく。	・多部制の高校は数少ないので、それを生かした教育ができるのは強みだと思う。実践・取組が達成できたことと評価されていることはすばらしいことと思う。 ・学校設定科目「コーピング」の高評価がありますが、日々生活で目にする生活基本漢字テキストを有効に活用し、習熟持続性を求めて、社会での基本であることを気づかせてください。 ・北高検定では、各教科の難問度の格差はあると思いますが、英語力のアップを期待します。
5		質の良い授業の実施	①シラバスの作成と一般公開(ホームページに掲載) ②授業における生徒情報・配慮事項を全教員で共有し、生徒が授業を受けやすい環境を作る。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を展開する。 ③オープンスクール(授業公開)を活用して教員の授業力向上を図る。教科の枠を超えて、多様な指導方法を取り入れる機会を作る。	A	①達成 次年度も継続する。 ②おおむね達成 ③第1回オープンスクール「生徒のわかるを引き出す授業」、第2回オープンスクール「対話を取り入れた授業」をそれぞれテーマにして実施した。授業見学とその後の教科会という形で研修をおこなった。また、各教科会の結果を集約して教員に配布した。次年度もこの形で継続したい。	・基礎基本を大切にし、生徒に確かな学力を身に付けさせようと工夫されています。なかなかいろいろと難しい面もあるうかと思いますが、一人一人のニーズにあったご指導をお願いいたします。
6		学習指導の効果を高める取組	①習熟度別クラス(国・英)、少人数クラス、複数教員による指導(チーム・ティーチング)等を効果的に活用する。 ②学校設定教科「コーピング」で学習スキルを高める「コーピング・メソッドタイム」を実施する。 ③独自検定「北高検定」を通して生徒が自ら学ぶ姿勢を養う。5級以上認定者の割合を50%とする。 ④自主学習スペースを設定・活用する。	A	①達成 次年度も継続する。 ②おおむね達成 ③検定の実施要領をリニューアルして2年目となり、スムーズに検定を実施することができた。数値目標については、第3回までの結果において、国語63.1%(昨年度52.4%)、社会78.0%(同67.1%)、数学53.1%(同27.2%)、理科52.7%(同35.3%)、英語34.6%(同22.0%)であった。12月に今年度全4回の検定を終え、生徒むけにアンケートをおこなう予定である。次年度以降は、作問の工夫を行うことで、目標達成をはかりたい。 ④職員室前にスペースを設置した。次年度も継続する。	
7	生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と校則を遵守する態度の育成	①授業態度やマナーを改善させるルール作りと指導の徹底 ②時間の厳守、あいさつの励行を推進するためにあいさつ運動や日常の声掛けを行う。 ③生徒のスマートフォン使用時間帯を把握し、生活習慣を自ら見直す姿勢の確立	A	諸先後礼の徹底や授業時間を大切にすることは浸透してきた。しかしながら一部の生徒が授業に集中できていないことがある。生徒が授業に集中できる時間が年々短くなっている。次年度はスマートフォンと集中力の因果関係に着目しながら生徒の生活習慣を見直す仕組みを確立したい。	・アンケートで生徒は「入学してよかった」「入学して成長できた」が多く、保護者も「入学させてよかった」「お子様は入学から成長できた」が多く、すばらしいことである。 ・先生方の生徒への取組が見られ、退学者も減少。また、高学年ほど特別指導件数が少ないのはありがたいことであり、今後も悩み等により先生方との交流を期待します。 ・SNS等によるいじめがありますが、深刻となれば18歳未満であれば無料電話となった「子どもの人権110番」や「189(いちばやく)」の取組を知らせてください。ネットモラルの推進も重要だと思います。 ・授業において、一部集中力の欠落が見られるようですが、肩をたたく等で生徒との笑顔のやり取りを継続してください。 ・ボランティア活動、生徒会活動、部活動等を通して自尊感情を高めたり、自己有用感が感じられたりする取組は大切だと思います。今後も引き続きお願いします。
8		生徒の自己有用感・達成感の育成	①ボランティア活動に参加する生徒を増やし質的拡充を推進する。 ②日常の全員清掃を実施し、掃除のやり方を掃除監督が指導する。 ③生徒会活動・部活動・学校行事を通して生徒を鍛える。	A	生徒会活動の自治能力を育成するために生徒自らが積極的に行動に移せるように、学校行事の計画を生徒に計画させるなど例年と違うやり方に代えた。失敗もあったが、生徒の達成感は得られたと思う。掃除やボランティアについては、再度重点目標と照らし合わせ考えなければならない。	
9		他人を思いやる心の育成	①いじめの積極的認知に努め、いじめの定義を生徒に十分に理解できるように指導する。 ②生徒の些細な変化にも反応できるよう、生徒とのかかわる時間を増やす。 ③校内外巡回を積極的に行い、いつでも多くの生徒に寄り添える状態を作る。	A	積極的でないため認知を行う為に、教職員や保護者、生徒にいじめの具体例を示しながらいじめの定義を理解していただいた。校内外の巡回を通して、生徒と教員が触れ合える時間を増やした。その結果、生徒の些細な悩みや行動の変化に気づくことができ、未然に事故の防止に繋げられることが多かった。	
10	進路指導部	インターンシップの活用・充実	①キャリア教育としてのインターンシップへの参加率100%達成を目指す。	A	①今年度は達成率100%を達成したものの、就労への意識づけがやや欠けていた。今後は、正社員を目指す生徒が増えるように、さらなる情報提供と指導を充実させていきたい。また、インターンシップ保険の見直しを図りたい。	・就職希望の生徒のうち7割以上の生徒が資格取得のないまま卒業しているという実情というのは残念だ。企業側からも要望があるのだから、もう少し学校が力を入れても良いのではないかと。 ・就職活動においては、資格取得が求められるものの、取得には困難が多いようであるが、生徒の向かう方向を早導き出し、実現への方向性を示すようにされてはどうでしょうか。 ・生徒たちが自己実現できますようにこれからもお願いします。
11		進路ガイダンスや企業見学会・補習等の進路行事や進路ホームルームの充実	①インスパイア・ハイスクール事業を活用し、進路ガイダンスや大学・企業見学会等の行事を実施する中で、生徒のキャリア教育向上を目指す。 ②進路HR計画に基づき、進路ノート・キャリアノートの刷新を図ることで、キャリア教育を深化させる。 ③各行事の事前指導と事後指導を行うことで、行事への取り組み姿勢の向上を図る。 ④「夏季補習」や「総合的な学習の時間」、「キャリア学習ウィーク」を活用し、進学・就職に分けて、計画的継続的な補習を実施する。	A	①インスパイア・ハイスクール事業を活用し、学校独自での進路ガイダンス開催や、大学・企業見学会、就職ガイダンス、職業体験セミナー、就職講座・進学講座を企画・開催し、計画的・実践的に体験的活動を経験させることによって、進路実現に対して自発的な態度を養うことが出来た。②進路HR計画を立て、進路ノートやキャリアノートの内容の充実を図ることができた。③進路行事毎に事前指導と事後指導を行い、行事の充実度を高めることができた。④就職希望者や進学希望者毎に計画的・実践的な指導を行うことができた。	
12		ハローワークや企業との連携強化	①キャリア学習講演会にハローワーク職員を招き、講演を受ける。 ②JOBフェアや企業との懇談会に積極的に参加し、就職内定率5年連続100%を達成する。	A	①キャリア学習講演会にハローワーク職員を招き、より専門的な中身の充実した講演を行うことができた。②JOBフェアや企業との懇談会に積極的に参加したが、就職内定率は、12月末現在で81.0%とやや厳しい結果となっている。	
13		企業からの要望でもある資格・検定の取得を充実する	①各教科に呼びかけ、資格・検定の取得を生徒にも促し、企業の要望に応えるようにする。	B	①就職希望生徒のうち7割以上の生徒が資格取得のないまま卒業しているのが実情で、採用試験の不調の原因になるなど、企業側からの要望に応えられていないのが現状である。	
14		就職内定後の辞退ゼロや就職後の離職率の減少を目指す	①就職内定後の辞退ゼロならびに就職後1年以内の離職率10%以内達成を目指す。	B	①キャリア学習講演会にハローワーク職員を招き、正社員とアルバイトの違いや早期離職のリスク等の話を聞いた。また、就職講座を強化したことで、例年、就職後1年以内の離職率が30%前後であったが、昨年度卒業生については、10.7%とかなり改善された。しかし、内定辞退者が1名出たのが残念であった。	
15	保健・特別支援教育部	保健安全管理・保健教育の充実	①全校生を対象に健康相談を実施し、身体的・精神的・社会的に健康問題を抱えている生徒を正確に把握し、継続的な保健管理及び保健指導を行う ②学校医、学校歯科医と協力し、健康診断および事後措置を適切に行う ③学校薬剤師と協力し、学校環境衛生検査及び事後措置を適切に行う ④キャンパスカウンセラーと協力し、教育相談の充実を図る ⑤安全点検を計画的に実施し、安全な学校環境の維持に努める ⑥生徒対象の保健講話及び教職員対象の研修(アレルギー・救急法・カウンセリングマインド)を計画的効果的に実施する ⑦心身の健康に関わる生徒の困難について医療福祉等外部の専門機関と連携し、適切に支援する	A	①全校生を対象に健康相談を実施し、生徒の健康意識、行動変化をつかむことができた。また、当日行えなかった生徒にも後日実施し、それを元に継続的な保健管理や保健指導を行った。ほぼ全ての生徒が何らかの健康課題を抱えており、それにかかる時間などが課題である。 ②健康診断当日の未受診生徒は年次の先生方の協力もあり減ってはきたが、まだ課題が残る。 ③学校環境衛生検査は滞りなく実施できた。事務室などから、その都度環境整備への協力をいただいており、引き続き検査を行っていくたい。 ④カウンセラーとの協力により、生徒・保護者・教師と様々な側面から実施できた。利用生徒が多いため、コンサルテーションの時間の確保や、実施時間が午前だったため、生徒の利用に偏りが出たのが今後の課題である。 ⑤7月、12月に定期安全点検を実施し、その都度上がってきた危険箇所については、事務室と連携しながら対応できている。 ⑥限られた予算の中で充実した講話及び研修を行うことができた。次年度に向けて、予算がない中で、充実した講話や研修を行えるよう、研修の内容等を考える必要がある。 ⑦昨年度に引き続き、外部との連携が必要なケースが増加している。それぞれのケースに対して、年次と連携し様々な関わりを増やすことが課題である。	・実態把握、引継ぎ、共通理解、大切なことが実践されているようだ。時間や人手、専門知識の向上等課題も多いがきちんと問題意識をもって取組まれているので評価したい。 ・いろいろな特性をもった生徒に対して、職員共通理解のもと、細やかに対応されていることに感謝いたします。
16		保健安全課題に組織的に対応する	①生徒の心身の健康課題について、タイムリーに情報を発信し、共通理解のもとで解決を図る ②各生徒が抱える健康課題に応じて、各年次や関係部所との会議を定期的に行う	A	①生徒情報交換会を実施し、要配慮生徒一覧を配布し、生徒の健康状態や配慮について共通理解を図っている。また、保健・特別支援教育部長・副部長・養護教諭・特別支援コーディネーターでほぼ毎日小会議を行い、生徒の情報共有を行っている。その中で、全体に共有した方が良い情報は、年次の先生と連携しながら職員に共有したり、対応策などを協議したりしている。 ②月に1回、年次主任も交えて保健部会を行い、生徒の健康課題等を共有している。ほぼ全ての生徒が何らかの健康課題を抱えており、時間や人手が足りていないのが課題である。	

番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
17	保健・特別支援教育部	特別支援教育の充実	①実態把握・・・療育手帳やサポートファイルを持って入学している生徒の実態把握をする。中高連携シートや発達障害の疑い等、気になる生徒に対しても担任や教科担当者よりリストアップしてもらい掌握する。そして、職員全体で共通理解をする。 ②支援の必要な生徒に対して、年次を中心とした職員、保健・特別支援教育部、キャンパスカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等の共通理解を図るとともに、本人と保護者と連携を図り個別の支援計画を作成する。 ③適宜、部会を開き、合理的配慮等の対応を検討する。	A	①、②、③取組内容通りに取り組み実施することができている。今後についても継続していく必要がある。	
18		支援が必要と思われる生徒に対しての進学・就労支援	①中学校からの引き継ぎや市町役所福祉課、支援相談員等と連携を取りながら、必要に応じて特別支援学校のセンター的機能を活用して、ケース会議を開き支援についての助言を得たり、専門家を招聘して、専門性向上のための職員研修会を実施したりする。 ②就職希望者で職業訓練等の検査を受けその判定結果について会議を持つ。また、進学・就業時には、移行支援計画を作成する。 ③高等学校における通級の指導を希望する生徒には、自己理解と同時に他者理解されるように学習することで、将来社会に出てから困り感が少なくなるように社会自立できる力を身につける。また、通級指導を希望する生徒には、個別の指導計画を作成する。	A	①、②、③取組内容通りに取り組み実施することができている。今後についても継続していく必要がある。③については、受講希望者が年々増えてきているため、複数名の指導者が必要であると同時に指導者の専門的知識の向上も必要である。そのことが、今後の課題として考えられる。	
19	人権部	生徒が自分自身を大切にする。	ボランティア活動等の体験を通じて自己有用感を養う。	A	ボランティアを通じて、個々の生徒が自分でも人の役に立つことが出来るのだ、という実感をもつことが出来ている。しかし、特定の生徒に偏っているため、次年度は、もと多くの生徒がボランティア経験を積めるよう呼びかけたい。	・ボランティア活動を通して、人の役に立ったり、自己有用感を得たりすることは人間形成においても大切であるし、災害等を風化させないことにひとつの役割を担えるのではないかと。 ・職員評価がよいのは、先生方が意識して取組んでおられるからだと思います。生徒の意識はどうでしょうか？自分を、または他人を大切にする言動はとれていますか。また、指導・支援をお願いします。
20		生命の尊うさを実感する。	あらゆる学校生活を通じて、自他の尊厳を大切にする。	A	世情の言う「生産性の有無」だけでなく、人の存在価値が定まらないことを伝えて来た。しかし、生徒個々の個々としての実感を伴わせることが課題である。	
21		人権尊重の基礎を固める	あらゆる人権課題に対して、まず「知ること」を第一義として学ぶ。	A	無知が故に差別被差別が生まれて来た過去を学び、個々の人権感覚の涵養を図った。就職面接時の禁止14項目の実践を通じて、さらに充実を図りたい。	
22	ボランティア・図書部	円滑なボランティア活動の実施	地域支援ボランティア活動の依頼先により担当職員を割り振り、生徒にも事前に予告することで円滑に実施する。	A	ボランティア活動の件数が多い9月以降は、一覧表に示すなどし、教員、生徒が計画を立てやすいように工夫をした。	・(ボランティア) 活発な活動ができている。災害から時間がたつにつれ、ボランティアの内容も変わってきてつつある。職員のアンケートで「ボランティアに取組んでいる」がBなぜ？ ・西脇北高校と云えばボランティア活動のイメージが大きいものすそ野まで広がっていないのではないかと思います。他校に誇れる活動ですので、生徒の負担を小さくするため兵庫ボランティア助成を大いに活用し、より多くの生徒の参加を期待しています。 ・語り部は、体験のない若者には難しいと思いますが、災害から学び、伝え、自分の命を守る伝承を続け、活動に誇りを持ってください。
23		災害支援ボランティア活動への積極的参加	東日本大震災現地ボランティア活動を始め、災害支援のボランティアや募金活動、語り部活動を積極的に行なう。	A	災害支援ボランティア活動の実施はもとより、近隣の住民や小中学生に対して語り部活動として災害時の備えについて伝えた。	
24		ボランティア活動における広報の充実	生徒が取り組んだボランティア活動の様子をホームページ等に掲載し、広報活動を充実させる。	B	WEBページを利用し、生徒の活動を伝えた。また、12月に災害ボランティア展を実施し、広くその活動について伝えた。	
25		図書室の環境整備	①生徒のニーズに合った書籍を購入する。 ②生徒の充実した読書活動のため、本校職員や保護者などに購入する書籍に関する意見を広く集める。 ③生徒が本を探しやすいように適切に配架する。	A	アンケートを実施し、生徒に興味関心のある書籍を購入するように努めた。また、書棚の整理をすることで生徒が利用しやすい図書室づくりが実践できた。	
26		図書室活用・読書活動の推進	①図書委員会を中心に「ボードゲームデー」や「レファレンス大会」、「ビブリオバトル」を企画し、生徒の図書室利用を活性化する。 ②「ライブラリーカフェ」を実施するなど、図書室を生徒が安心して過ごせる居場所とする。 ③図書だよりを定期的に発行し、生徒が読書に興味を持てる情報を提供する。	B	①②図書室利用者を増やすため、また、本に興味を持ってもらうために、イベントを実施し多くの生徒が足を運んだ。 ③世の中で売れている本の紹介や教員の考えを伝える中で、興味関心を持たせるようにした。	・(図書) 職員の図書室活用がなされていないことが生徒の図書室活用がふるわないことにつながっているのではないかと。 ・中学校では読書をする生徒が少なくて苦慮しています。読書のよさをアピールしていきたいと思っています。
27	絆づくり推進委員会	生徒と地域の交流機会を創造する	①6月花いっぱい運動、11月こども園においてへそレンジャーショーを実施する。 ②災害支援や地域支援のボランティア活動を実施する。	B	①1年次が近隣の幼稚園で交流活動を行った。普段学校では見えないいい表情で生徒たちは頑張っていた。 ②東日本大震災現地ボランティア活動および長野市での水害被害に対するボランティア活動を実施した。	・地域や行政・企業との繋がりが見られまず。HP等に頑張っている、笑顔のある生徒の姿を掲載してください。
28		生徒と教員の交流機会を創造する	①全校生の縦割りクラスを編成し、学校行事などを通して生徒と教員の交流をつくり絆を深める。 ②北高ホットスペースなどで声かけ運動を実施し、問題行動や生徒の孤立化を防ぐ。	A	①清掃活動では、上級生が後輩に指示をするなど一定の役割を果たすとともに、積極的に活動を行っていた。 ②自殺予防プログラムの根幹の一つである取組、生徒たちの学校の中での居場所づくり、孤立化の防止を実現できた。	
29		外部機関との間に交流機会を創造する	①「自殺予防に生かせる教育プログラム」「いじめ防止プログラム」活用することや職員の研修会、生徒向けの講演会を実施する。	B	教職員に対する研修会を実施する。(未済)	
30	ネット管理担当	情報機器を利用した授業づくりの推進	①普通教室や特別教室でコンピュータやモニターを利用できる環境を整備する。 ②情報処理室や普通教室で全教科が授業展開できるようにシステム設定やソフトウェアの導入を推進する。	A	①HR教室のある各階に2台、モニターを設置することができた。また、図書室には備え付けの大型プロジェクタを設置することができた。 ②職員室に置いてある持ち出し用PCの設置や、サテライト集会用のPCを設置することができた。	・情報機器の環境設備や配置は十分になされていますか？予算がからんでくるので難しい面もありますが、できるかぎり情報機器を利用した授業づくりをお願いします。
31		共有ファイル(Share)の効率化	①共有ファイルが利用できやすいように整理する。 ②容量がオーバーしないよう共有ファイルを管理する。	A	①年度途中に共有ファイルの整理をして、不要なファイルや重複するようなファイルは削除することができた。引き続き共有ファイルの整備に努めたい。 ②容量オーバーの対策として、新しいNASを導入した。そのため共有ファイルを最適に使用できるように改善した。	
32	事務室	環境負荷軽減の推進	① 光熱水費の節約 ② 紙の使用量の削減 ③ 環境配慮型製品の購入及び物品の長期使用	A	①②③とも概ね達成できた。 引き続き節減等に取り組んでいきたい。	
33		施設・設備の点検及び校内環境の整備・美化の推進	① 施設・設備の定期的な安全点検及び整備 ② 樹木の剪定等の美化の推進	A	①安全点検については、定期的に行った。施設・設備の整備については、予算の範囲内で可能なものは実施できた。予算を確保し、引き続き整備に取り組んでいきたい。 ②概ね達成できた。	
34		接遇の推進	① 来校者への挨拶及び丁寧な窓口対応 ② 迅速な電話対応	A	①②③とも概ね達成できた。 引き続き接遇の推進に取り組んでいきたい。	